
F B I から来た女 ~ 短編集

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FBIから来た女く短編集

【Nコード】

N6523U

【作者名】

ユージ

【あらすじ】

FBIから来た女シリーズでは語られなかった、新たななる物語。

第1話：ビルに潜む誘拐犯

コナンと哀は、いつものように仲良く下校していた。

少し寄り道をして。

哀

「コナン君、良いの？こんなキレイなハンカチ・・・」

コナン

「ああ、オマエへのプレゼントだよ。」

哀

「嬉しい！ありがとう、コナン君・・・」

哀は嬉しそうにハンカチを持っている。

その時、強い風が吹いてきた。

ビュオオオ・・・

哀

「キャッ！！」

フワッ・・・

哀

「あ、ハンカチが・・・」

哀が持っていたハンカチは風に飛ばされて舞い上がり、近くのビルの窓に入ってしまった。

コナン

「哀、中に入るぞ。」

哀

「ええ。」

コナンと哀は、ビルの中へと入って行った。

コナン

「あつたあつた、ハンカチだ。」

哀

「良かった。ランドセルにしまっとこうっと。」

哀はハンカチをポケットに入れた。

その時・・・

ガンガン！

コナン・哀

「？」

ガンガンガンガン！

ガンガン！

哀

「この音って……」

コナン

「252だな……」

哀

「音は向こうの部屋から聞こえたみたいよ。」

コナン

「行ってみるか。」

コナンと哀は、音がした部屋の扉を開けた。

ガチャ！

「ん？何だ、ボウヤ達は。」

そこには、警備員の格好をした男女がいた。

コナン

「友達のハンカチが飛ばされて、このビルに入っちゃって。お兄さん達、このビルの警備員さん？」

「ええ、そうよ。最近地震が多いから、強度を調べてたの。」

コナン

「フーン。行く、哀。」

哀

「え、ええ。」

コナンと哀は、足早にその場を去った。

コナン

「今の2人、何か怪しかったな。」

哀

「ええ、とてもじゃないけど警備員には見えなかったわね。」

コナン

「よし、ここは警察に・・・」

「誰に電話するって？」

ザッ！！

「大したガキ共だ、オレ達を警備員じゃねえと見破るとはな。」

コナン

「来るのが遅いね。実はもう警察を呼んであるんだよ。」

「なっ！？」

コナン

「ねえ、佐藤刑事！」

「何ですって!?!」

バツ!

「何よ、誰もいないじゃ……」

忽然。

「あぁっ!?!」

「逃げやがったな!?!」

コナン

「哀、ここはオレが引き受ける。オマエは外に出て、警察に連絡するんだ!」

哀

「うん!?!」

「ガキだ！見つけたぞー！！」

コナン

「（よし、まずはコイツから・・・だー！！）」

コナンはサッカーボールを射出し、蹴っ飛ばした。

だが・・・

サツ！

バシッ！

コナン

「え！？」

何とコナンの蹴ったボールは、女に素手で止められてしまった。

グググ・・・

パァン！

コナン

「な、何で・・・！？」

「悪いわね、私こう見えても元空手部なのよ。」

コナン

「そんな・・・」

哀

「コナン君、遅いなあ・・・すぐに追いつくって言ったのに・・・とりあえず、マリアちゃんにメールしよう。」

哀は外に出るため、1階へ向かった。

タタタ・・・

哀

「!?!」

「いらっしゃい、お嬢ちゃん。」

哀

「コナン君助けてっつ!?!」

「無駄よ、あの子はもう私達の手中。」

哀

「そ、そんなあ・・・」

コナンと哀は、4階の部屋に監禁されてしまった。

2人は手足と体をロープで縛られ、口をガムテープで塞がれている。

コナン・哀

「んゝ、んゝ・・・」

「ちよろいもんだったな。」

「にしても、あの男・・・ちゃんとここに来るんでしょうね？」

「心配はない。愛娘を人質に取っているんだからな。とにかくヤツがやって来たら、娘共々始末だ。」

「それにしてもバカなボウヤ達ね。こんな所にノコノコ入って来なければ、死なずに済んだのに・・・」

コナン・哀

「んゝ、んゝ!」

その頃、刃とマリアは工藤邸に向かっていった。

マリア

「何なんや、哀ちゃん・・・電話しとつのに一向に出えへんし・・・」

「

刃

「何かあったんやるか？」

刃とマリアが工藤邸に着くと、そこにはスーツを着たある男性がいた。

刃

「あら？」

マリア

「アンタは……」

「そろそろ来る頃ね。」

「ああ……」

「来たぞ！」

コナン・哀

「（この声は……）」

「フン、ようやく来たか……」

2人はドアの方に向かう。

そして、次の瞬間・・・

「ぐああ!!」

「キヤア!!」

2人はバツタリと倒れ込んだ。

コナン・哀

「!？」

「あれ？コナン君と哀ちゃんやん。」

「何でここにおるん？」

刃とマリアはコナンと哀に近づくと、拘束を解いた。

コナン

「な、何で君達が？」

マリア

「姫川さんに頼まれたんや。愛娘を助けてやって欲しいってな。」

哀

「それって、まさか・・・」

刃

「ああ・・・アタシらがよう知つとつ・・・」

刃は男から奪った鍵でロッカーを開ける。

ガチャ！

そこには、拘束された播磨紅子がいた。

コナン・哀

「は、播磨さん！？」

マリア

「どうもこの2人、以前姫川さんに逮捕された銀行強盗なんやて。」

刃

「ほんで姫川さんに恨みもつとって、復讐するために帰宅途中やった播磨さんを襲い、拉致したらしいわ。」

マリア

「それにしても、アンタらもドジやなあ。」

刃

「アタシらやったらそんな簡単にやられへんよ。」

コナン・哀

「う、うるさいな・・・」

その後、男女の2人組は警察に連行されていった。

だが刃とマリアは知らなかった。

1週間後、自分達が同じような目に遭う事になることは・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6523u/>

FBIから来た女～短編集

2011年10月3日04時28分発行